

第4回大阪市障がい者施策推進協議会 発達障がい者支援部会会議概要

日時：平成26年9月1日（月）午前10時～12時

場所：市役所屋上階共通会議室

【議題1 発達障がい者支援センター事業実施状況について】

- ・対人関係がうまくいかずに転職を繰り返す人やうつになって医療機関で受診し、最終的に発達障がいがあることがわかる人が非常に多い。まだ普及啓発が不足している。学校現場では発見する機会が増え、相談機関が継続する機会が増えている気がする。また大企業でも研修が充実してきているが、中小企業や事業所ではそこまで浸透していない。
- ・相談に来る方の中で、生活困窮されている方が増えているかについて、離職されて生活保護を受けている方は多く、生活の糧、生活保障についての相談が多い。

【議題2 発達障がい者就業支援コーディネーター事業実施状況について】

- ・一般の高校や大学における相談や就労についての課題や現状について、学校の体制に差があること。特別コースを設けているところもあるが、体制が整っていないところが多い。学校の就労担当者への情報提供や学校の体制整備について支援していきたい。
- ・私立高校では就労より進学を優先され、就労は家族で対応しないといけなくなることがある。
- ・高校での就労支援について、府立は府立高校に相談機関があり、市立はこども相談センターが対応。私学では対応の差が大きいが、私学の相談や学校支援は府を紹介。
- ・府立高校は全校生徒に高校生活支援カードを配っている。障がいについて相談しやすくなったと言われている。中学校にも普及されると、引き継ぎができるようになる。この取組に注目している。
- ・勉強と就労の違いの学習や働くことの体験が出来る場が必要ではないか。

【議題3 再構築事業実施状況報告について】

- ・学校の巡回相談のスタッフと保育所等訪問支援事業のスタッフとの連携や情報交換については、直接の連携はない。
- ・教師の自立支援部会等への参加については、関わっている機関が集まって話し合いをすることは大切なことなので、できるだけ参加してもらえよう、協力依頼をしたい。
- ・ペアトレのスタッフについては、エルムおおさかの職員が実施しており、参加している方のどんな話についてもすべて肯定的に受け入れるようにしており、安心してお話ができるということを大切にしている。

- ・区役所版ペアレント・トレーニングの実施状況については、今年度は6区で実施。来年度実施要請されている区もあり、今後24区に広めていきたい。

【議題4 「次期『大阪市障がい者支援計画及び大阪市障がい福祉計画』策定に向けた検討状況について」発達障がい者支援指針（仮称）について】

【議題5 『（仮称）発達障がい者支援指針』策定について】

- ・第1章は指針で、第2章は具体的な取組である。取組は指針に基づき、足りないところや充実するところの議論がなされていく。
- ・学齢期では余暇等の学校以外での生活で出てくる問題も多い。学校と福祉制度、地域での生活の支援が調和するようになれば安定した生活になる。意思決定支援の大切さを言われているが、学校生活では学習面、技術やスキルを身に着けるものと就労や生活する時に必要なコミュニケーションの力とうまく補い合っていけばいい。適応するように支援があるが、反面、過剰適応になってはいけないということも大切なので、その部分を織り込めないかと思う。
- ・学齢期の支援について、小学校、中学校だけの考え方のように見える。高等部、高等学校の支援も入れてもらえると、成人の繋ぎにもなり、わかりやすくなる。思春期、青年期というライフステージ毎にできないかについて、小中学校だけに限っているわけではない。行政的にいうと、高校部門については私立は大阪府の私学・大学課、基本大阪府が中心になっており本市が実施するものは少ない。思春期という区分ができていないが、18歳までの部分がここに入ってくる。メニューが希薄であり、今後これをベースに次の目標についてまたメニューを増やすことを考えたい。

【議題6 その他「世界自閉症啓発デー」（4月2日）「発達障害者啓発週間」（4月2日～8日）について】

- ・日本自閉症協会が世界自閉症啓発デーで大阪市と大阪府の協力で大阪が実施した取り組みを載せている。今までできなかったことなので、感謝している。「いとしご」（会報）No.146に世界自閉症啓発デーでの取り組みの中で大阪城と啓発ウォーキングの写真を載せさせてもらっている。